

5-3 教員及び職員の情報通信技術活用能力の研修

5-3-1 FDのための情報技術研究講習会

<事業計画>

私立大学における教員の教育技術力の向上を支援するため、全国の大学・短期大学を対象に「FDのための情報技術研究講習会」を学外FDとして実施する。コンテンツ作成技術と授業支援ツール活用方法の演習、分野別にICT活用教育方法を探求するコースを設けるとともに、特徴的なICT活用教育モデル、ICTとモバイルの活用、ICT活用教育を推進するための著作権法理解などの関連情報を提供する。

<事業の実施結果>

「FD情報技術講習会運営委員会」を継続設置し、「FDのための情報技術研究講習会」を実施した。以下に委員会及び講習会の活動を報告する。

FD情報技術講習会運営委員会

10月26日、11月13日、12月21日、平成30年1月22日、2月13日に平均8名が出席して5回開催し、開催計画の策定、実施準備を行った。

(1) 開催要項の策定

アクティブ・ラーニングを実現する上で必要となるICTの活用方法と、教育改善手法の習得を目的に、私立大学教員の教育技術力の向上を支援する学外FDとして案内する。

プログラムとしては、大人数授業におけるアクティブ・ラーニングの事例、ICTを用いた授業支援の体験、著作権の基礎知識を紹介し、教員が希望するアラカルト方式による9つのワークショップに分かれて、LMS、教材作成、モバイル活用の知識理解から情報技術の獲得までを目指して、以下のように開催要項を策定した。

平成29年度FDのための情報技術研究講習会開催要項

1. 開催日程：平成30年2月28日(水)～3月1日(木)
2. 会場：追手門学院大学（大阪府茨木市）
3. 対象者：授業改善に情報通信技術の活用を希望される私立大学・短期大学の教員
4. 講習会の概要

大学教育に、自ら学ぶ力、自ら考える力を育てるアクティブ・ラーニングが望まれて久しくなります。しかし、アクティブ・ラーニングに積極的に取り組む意識はあるものの、実際にどのように自分の授業の中で展開していくのか、その具体的な方法に戸惑う教員も少なくありません。

そこで、本研究講習会では、アクティブ・ラーニングを実現するために、分野共通で必要と思われるICT(情報通信技術)の活用方法および教育改善手法の習得を目的として、事前・事後学修を徹底するためのLMS、教員と学生・学生同士による対話環境を支援するツール、動画などの視覚教材、ICTを活用した授業マネジメントなどについて全体会とワークショップを設定しました。

【全体会】

- (1) 講演：「LMSを活用した大人数授業におけるアクティブ・ラーニング」
岩崎 千晶 氏（関西大学教育推進部准教授）
- (2) 体験：「ICTを用いた授業の支援」
及川 義道 氏（東海大学教育開発研究センター次長、理学部准教授）
- (3) 講演：「ICT活用と著作権の基礎知識」
中村 壽宏 氏（神奈川大学大学院法務研究科教授）

【ワークショップ】

ここでは、LMS、教材作成、モバイル活用の知識理解から情報技術の獲得を目指して、参加される先生それぞれの希望に応じたアラカルト方式で実施します。

(1) ワークショップ 1 「Google Classroomで授業を受けてみる」

[コース内容]

Google Classroomが一般のGmail利用者にも開放されました。Web上で誰でもクラスを作って教えたり、学修者として学んだりすることができます。トピックの作成、お知らせ・課題・問題など機能は限られますが無料で利用できます。受講される先生方に学修者になっていただき、さまざまな場面のミニ授業を受けていただきます。授業での利用の可能性を検討していただきます。なお、スマホ(Android, iOS)をお持ちの方は、スマホから体験することができます。

(2) ワークショップ 2 「LMS基礎編：LMSの基本操作」

[コース内容]

LMS(Learning Management System)は、学修支援を行うための便利なツールです。事前に資料を配布する、知識の修得状況を把握するなど予習の段階から、授業内での資料の提供、質疑応答、問題演習、授業後のレポート提出、小テスト、演習など、学修の様々な状況でオンラインによる支援が可能です。Moodleと呼ばれるLMSを用いて、このワークショップ用に準備したサンプルに、PDF資料、討論、アンケート、課題提出などの情報を追加しながら、予習、授業、復習での利用方法の習得を目指します。

(3) ワークショップ 3 「モバイルによる教材作成」

(iPhone/iPadを用いたビデオ作成とYouTube配信)

[コース内容]

近年、反転授業の事前学修、演習問題の解説、実習等のやり方の説明など、講義ビデオが活用される場面が増えてきました。最近では、モバイル端末を活用して簡単に講義ビデオを作成し、配信することが可能です。ここでは、「講義ビデオの基礎」や「授業での活用ポイント」について解説します。その後、iPhoneまたはiPadを用いて講義ビデオを作成し、YouTubeで配信するまでの実習を行います。

(4) ワークショップ 4 「Google Classroomで授業を始めてみる」

[コース内容]

授業では、学修者の反応を確かめながら進めたり、学修者同士の話し合いを重視したり、あらかじめ課題を出しておいて課外で学ばせたり、授業のまとめや定着を授業後に課外で行うなど様々な形態が考えられます。ここでは、Classroomで実際にクラスを作り、トピックの作成や課題や問題などを登録し、ご自分の授業形態にそった利用方法を考えていただきます。

(5) ワークショップ 5 「LMS活用編：レッスンとテストの作成」

[コース内容]

LMSによる学修支援方法の一つとして、レッスンという方法があります。この方法では、学修者への資料の提示→問題と選択肢の提示→選択肢に応じた資料の提示を繰り返しながら、学修者ごとに適した情報を提供します。また、学修内容の確認や応用力養成のため、小テストを実施することがあります。ここでは、Moodle上でレッスンや小テストを作成する基本操作の習得を目指します。レッスンの作成では、実際にいくつかの資料、問題を作成し、これらを連結して一つのレッスンを組み立てます。また、問題を組み合わせる小テストを構築する方法も実習します。

(6) ワークショップ 6 「動画教材の作成」

[コース内容]

近年、反転授業の事前学修、演習問題の解説、実習等のやり方の説明など、講義ビデオが活用される場面が増えてきました。ここでは、パワーポイントで作成した資料を動画として提供する方法、PCでの画面キャプチャによる動画教材作成の方法について実習します。また、作成した動画教材をLMSやYouTubeで利用する方法についても実

習します。

(7)ワークショップ7 「ICTを活用したアクティブ・ラーニングのマネジメント」

[コース内容]

アクティブ・ラーニングにはマネジメントが必要です。ここでは、反転授業による知識の定着・確認のマネジメント、知識を活用した課題探求型PBL授業のマネジメント、地域社会との連携による体験型授業のマネジメントについて事例を紹介し、課題の整理と改善に向けた対策をディスカッションします。

(8)ワークショップ8 「ICTを活用したルーブリックの作成」

[コース内容]

近年、ルーブリックが注目を集めています。ここでは、最初に、ルーブリックとは何か、どのような場面で活用できるのか、ルーブリックの基礎について具体的なルーブリックの例を提示しながら解説します。その後、LMS(Moodle)やGoogleドライブを活用して、学生用・教員用のルーブリック作成を実習します。

(9)ワークショップ9 「ビジュアルプレゼンテーションの作成」

[コース内容]

Preziを用いたビジュアルプレゼンテーション作成技術の習得を行います。従来のスライド型プレゼンテーションツールとは異なり、プレゼンテーション全ての内容を一枚の大きいシートに配置し、必要に応じてシート上の一部分を拡大縮小など自由に設定することにより、視覚に訴えかけるプレゼンテーションができます。ここでは、Preziの基本的な作成方法について、予じめ準備した素材を使って実習します。PreziはWebブラウザ上で利用でき、学校ドメインのメールアドレスがあればEDU Standardが無料で使えます。

(2) 実施結果

平成30年2月28日から3月1日の2日間開催し、追手門学院大学を会場に、46大学1短期大学、78名の参加があった。以下にアンケートを踏まえた結果を報告する。

- ① プログラムを全面的に見直し、参加教員全員が講習及び授業体験する全体会と、希望に応じて演習するワークショップに改め、実施期間も3日間から2日間に短縮し、参加費用も軽減した結果、参加者の規模が昨年度の23名から3倍以上増加した。
- ② 全体会では、講演として「LMSを活用した大人数授業におけるAL(アクティブ・ラーニング)」と「ICT活用と著作権の基礎知識」、体験授業として「ICTを用いた授業の支援」を行った。アンケートでは、「反転授業やALの意義・方法が理解できた」、「体験授業のような講義が受けられる学生がうらやましい」、「著作権の話がタイムリーで分かりやすく参考になった」など、有益との感想が寄せられた。
- ③ ワークショップは、「Google Classroomを活用する」が2コマ、「授業にLMSを活用する」が2コマ、「動画教材を作成する」が2コマ、「ICTを活用したALのマネジメント」が1コマ、「ICTを活用したルーブリックを作る」1コマ、「ビジュアルプレゼンテーション作成」1コマの合わせて9コマを設定した。1コマ3時間で見通しが立つように準備した。その結果、達成度は9コマの中で7コマが全員「達成できた、見通しが立った」が、2コマは1割が「達成できなかった」。
- ④ 以下に寄せられた感想の一部を紹介する。『Google Classroom』では、「授業のような進行で学生の立場を体験できてよかった」、「講習内容を把握していない受講者がいたが、利用方法を考える講習としては満足」。『LMS』では、「LMSで何ができるのか分かった」、「新たな操作、仕組み、活用方法など知ることができた」。『動画教材』では、「気軽にiPadで動画教材ができるようになった」。『ALマネジメント』では、「内容が深く講習を通じて、ALを体験できてよかった」。『ルーブリック』では、「具体的に作成し、活用する技術を得られて満足している」。『ビジュアルプレゼンテーション』では、「新しいプレゼンが修得できた」など、大きな成果が得られた。